

ヒヤリハット

「1件の重大災害(死亡や重症事故)」の下には29件の軽症事故があり、その下には300件のヒヤリハットがある」という災害の法則があります。(アメリカ人の安全技師が発表した「ハインリッヒの法則」)

日頃から「ヒヤッとした」「ハッとした」経験を各々がメモにして発表することで全社員が共通の認識を持ち、その原因・対策を考えることで事故の芽を少しでも摘み取ろうとするものです。情報は各職場から集約され、鉄道保安総合委員会などで報告されます。

◆ ヒヤリハット報告で改善された例

● ヒヤリハット報告

- 踏切遮断機の内側にスペースがあり、誤って踏切内で列車の通過待ちをしている人を、運転士が発見した。
- 踏切の周辺で係員が作業中、踏切遮断機内の内側に取り残されている人を発見した。

● 対策

道路が線路と斜めに交差しているため、遮断機の内側に三角地帯ができています。これが、踏切の外であると誤認される場合があった。地元警察署と協議し、踏切内であることを明示するため、「踏切注意」を道路面に表示した。

● 効果

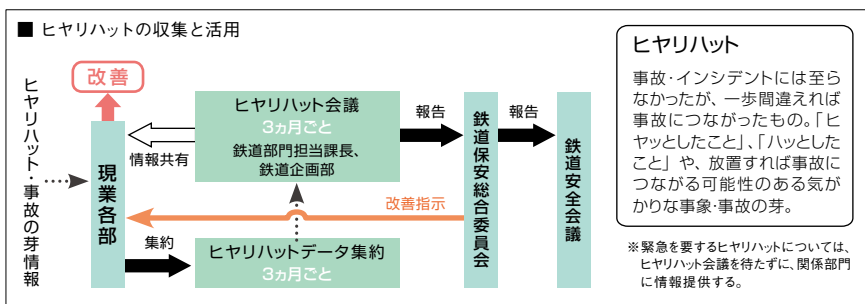
踏切内であることが明瞭になり、踏切内で列車の通過待ちをする人はいなくなった。



▲改善前



▲改善後



KYT(危険予知トレーニング)

危険の「K」、予知の「Y」、トレーニングの「T」としてKYTと呼びます。

KYTは、作業に従事する作業者が、事故や災害を未然に防ぐことを目的に、その作業に潜む危険を予想し指摘しあう訓練のことです。

危険予知トレーニングに役立つ手順に4ラウンド法があります。

第1R (現状把握)	▶	どんな危険が、ひそんでいるか
第2R (本質追求)	▶	これが、危険のポイントだ
第3R (対策樹立)	▶	あなたなら、どうする
第4R (目標設定)	▶	私たちは、こうする

日々、KYT(危険予知トレーニング)を行うことでヒューマンエラー事故の防止に努めています。鉄道事業部では安全活動トレーナーを養成するため、毎年、外部研修会に参加させて、リーダーの養成を行っています。

Message

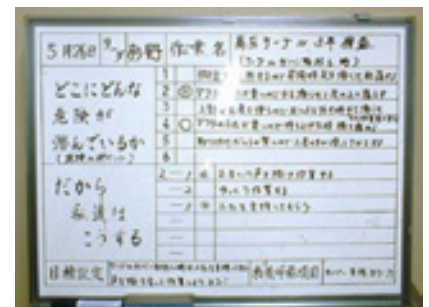


杉野 大輔
鉄道事業部 電気課
京都電力係

電気設備の保守作業には常に危険が伴います。私たちはKYTを積極的に行うことで、危険に対する感受性を高め、災害ゼロを目標に日々努力しています。
KYTは普段の生活でも役立ちますので、皆さんもぜひ試してみてください。



▲指差呼称



▲危険予知活動表

安全衛生

社員の安全と健康を確保することを目的に、京阪電鉄安全衛生委員会が設置され、その下に職場委員会として本社、鉄道事業部、大津鉄道事業部安全衛生委員会が設けられています。

さらに鉄道事業部では運転・工務・電気・車両の部門ごとに安全衛生分科会

を設けて活動を行っています。分科会の活動内容は、現場作業の安全パトロール、労働災害が発生した場合の原因究明と再発防止策の検討、同業他社も含めた労働災害・通勤災害の報告、各職場から提出された「ヒヤリハット」報告、衛生面における疾病などの状況分析報告で、労働安全や健康に対する意識の向上、快適な職場づくりに取り組んでいます。



▲安全衛生分科会